

eLearning 税理士

Windows®版 国内特許No.3820421号, 米国特許No.5888071号

財務諸表論・法人税法も余裕の合格！

税理士試験は科目単位での合格が認められている試験です。試験の特徴は、理論問題とその計算問題に分けて出題され、理論問題は大問題（複合応用問題）と個別問題の2問です。特に大問題に正答するためには、その問題の趣旨を正確に把握し、その全骨子を回答として正確に記載し、それぞれの条件骨子（通常5～7）に対応する理論の完全要約文（200～400字）を正確に記述しなければなりません。TLTソフトではこれら大問題、理論、計算合計約100問（法人は合計約130問）についてその骨子及全骨子の要約文を完全丸暗記するまでの徹底演習をワンタッチ入力と画期的な学習方法で演習するので、本試験では全問正解ができるはず。このように出題される可能性の問題を網羅し、完全習熟できる演習方法をとっているため、合格を揺るぎないものにします。

「財表」も「法人」もこのように全パターン問題について、即座に模範解答を記述できるように徹底演習するので、ゆうに合格点を突破できるでしょう。計算問題で合格点を完全クリアするため、出題の可能性のある計算問題のパターンは漏れなく、繰り返し繰り返し「立式」演習し、問題を目にした瞬間、その解答構成ができ正解作業ができるように訓練を積みまします。

NewtonのTLTソフトは、パソコンによる「習熟管理機能」「完全暗記機能」、それに膨大な学習を超速で進める「ワンタッチ入力システム」、習熟度判定による「合格番号表示」等の仕組みが認められ、国内特許（No.3820421号）及び米国特許（No.5888071号）を取得しました。

『合格保証制度』を付けられる理由

科目単位をスモールステップで確実に頭にすり込み、豊富な演習問題で解答能力を身につけ、「合格点」を十分に超える実力が養成されたとTLTプログラムが判定したとき、そのスモールステップの合格マークが学習履歴に記録されます。

全ての単元単位において受講生固有の合格番号が画面に表示されると、それはその範囲からどのような試験問題が出されようと合格点が取れる実力がついているという証です。このようにスモールステップで全ての科目に合格番号が表示された時、「合格点を超える習熟」を全うした証拠といえます。もちろん、この段階で「本試験には合格」と自信がもてるでしょう。TLTソフトは完全習熟の積み重ねで、合格にアプローチします。

『合格保証制度』万一、不合格なら全額返還

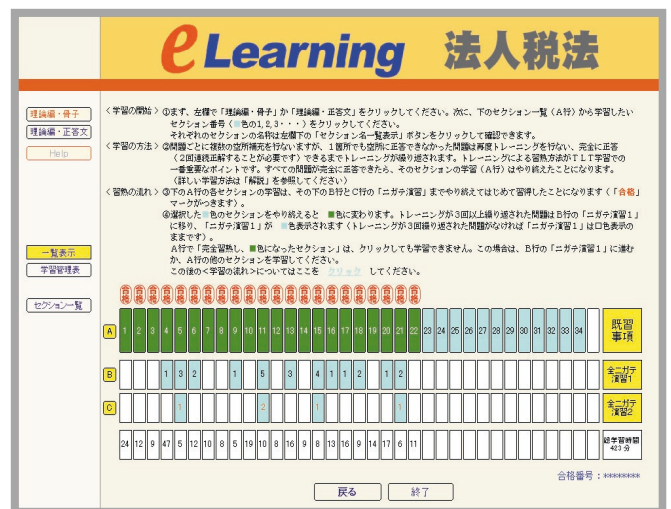
eラーニング契約期間内に全科目すべてに「合格保証番号」を表示させ、その全合格番号を専用ホームページから当社へご送信下さい。その後実施される本試験で万が一不合格になられた場合、お支払いになった e-Learning受講会費を全額返還します。全合格保証番号が表示された方ならば、不合格はあり得ないと考えているからです。（合格保証番号送信フォームのホームページURLは、e-Learning受講開始の際にお知らせします）

パソコン学習だからできる超速習

TLTソフトでの学習は、すべてパソコンの画面上で行われます。受講者の実行力にもよりますが、TLTソフトでの学習は誰もが熱中してしまいますので、アツという間に時間が過ぎて「勉強」が飽きません。TLTソフトは、これまでに経験したことのないパソコンを使ったリズムカルで超効率、超スピード習熟を可能にしました。

TLTソフトの『TLT』とは

TLTソフトとは、Testing（自分の実力をチェック）、Learning（知らない項目だけを学習）、Training（覚えるまで繰り返し演習）の頭文字をとったもので、Newton社が、多くの初心者でも容易に、自動的に『完全習熟』させてしまうことを追及して開発した、自動習熟システムソフトの名称です。



※ e-Learning税理士サンプル画面

—動作環境—

- OS：Windows®XP日本語版が動作するPC/AT互換（DOS/V）機推奨
- CPU：Intel Pentium®（または同等の）プロセッサ300MHz以上
- メモリ：256MB以上
- HDD：空き容量2GB以上
- 解像度：解像度1024×768以上、256色以上の表示が可能な機種（65536色以上推奨）
- 通信環境：インターネットに接続できる環境（ADSL・光回線などのブロードバンド環境推奨）

1 スピード習熟を可能にした「ワンタッチ入力システム」

TLTソフトでは、画面に表示される問題の『答』を入力する時に、長い『答』を打ち込むには時間もかかり、大変です。そこでTLTソフトでは、『答』の頭文字を入力すると『答』全体が入力されたとみなす機能を備えています。例えば、『答』が〔家族〕なら、〔KA〕と入れるとその時点で〔家族〕と表示されて、正解表示になります。そして、次の穴埋め、または説明文へと自動的に移行します。このように、頭文字の1文字を入力するだけでコンピュータは○×の判定をしてくれます。これが学習スピードを10倍以上にも上げる『ワンタッチ入力システム』なのです。

2 あなたの弱点項目を集中トレーニングする「習熟度管理機能」

最初にTestingでいくつかの問題が出題され、あなたが間違えた問題・弱点を見つけます。Testingでニガテと判断された問題を、Learningで例文・解説と一緒に、しっかりと理解するまで何度も繰り返し学習した後、Trainingで学習した問題が完璧に身についているかを再び確認します。LearningとTrainingを繰り返し、最終的には全てを完全習熟させてしまいます。このようにあなたの学習習熟度を管理するシステムにより、無駄なく着実に勉強ができるのです。

3 「忘却曲線応用システム」で100パーセント習熟

繰り返し出題されるといっても、同じ問題が何度も出てくるのではなく、出題形式や出題内容は少しずつ変化します。できたはずの問題が、しばらくしてまた出題されることもあります。これは、完全に覚えたと思っても、時間が経過したり、次から次へと新たな知識を吸収していくうちに、その記憶が希薄になり次第に忘れていくという有名な『忘却曲線』を応用したシステムで、TLTソフトではこのシステムにより、最後にはしっかり『頭にスリ込ませて』しまいます。

合格への学習計画

スモールステップで1項目ずつ完全習熟すると、最終的に全学習項目に合格番号が表示されます。総学習時間は個人差にもよりますが標準で財務諸表論350時間、法人税法400時間です。税理士TLTは、会計及び受験科目の税法知識が一定程度ある方を対象としています。

例)【財務諸表論350時間の学習計画】 ◆1日2時間学習…6ヶ月弱(175日) ◆1日3時間学習…4ヶ月弱(117日)

例)【法人税法 400時間の学習計画】 ◆1日2時間学習…7ヶ月弱(200日) ◆1日3時間学習…4ヶ月半(134日)

※学習項目は、バージョン・法改正により多少変わる場合がございます。

財務諸表論 理論編	法人税法 理論編	法人税法 理論編	法人税法 理論編
【全体構造】	【総則】	【本法上の税額控除】	【租税公課・給与】
【一般原則】	【受取配当等】	【措置法上の特別償却・特別控除1・2】	【寄付金・交際費等】
【損益会計】	【資産の評価損益・棚卸資産】	【外国関係】	【貸倒損失・引当金】
【資産会計総論】	【有価証券】	【申告・納付・還付】	【試験研究費・特別控除】
【資産会計各論Ⅰ・Ⅱ】	【減価償却】	【清算所得・青色申告】	【国庫補助金等の圧縮記帳等】
【負債会計】	【繰延資産・リース取引】	【組織再編】	【保険差益の圧縮記帳等】
【資本会計】	【繰延資産・リース取引】	【組織再編と他規定との関係】	【交換差益の圧縮記帳】
【財務諸表】	【外貨建取引】	【土地・借地権】	【特定資産の買換えの圧縮記帳等】
【特殊論点その他Ⅰ・Ⅱ】	【本法上の圧縮記帳】	【更正・決定】	【取用等の圧縮記帳等及び特別控除】
【本試験対策(過去問)】	【措置法上の圧縮記帳】	【その他】	【同族会社】
財務諸表論 計算編	【役員・使用人給与】	【連結納税1~3】	【外貨建取引】
【商法施行規則に基づく様式・注記】	【寄附金・交際費】	【本試験対策・過去試験問題1~3】	【外国関係】
【重要基本項目】	【租税公課・還付金等】	法人税法 計算編	【別表五(一)・税効果会計】
【特殊計算項目Ⅰ~Ⅲ】	【引当金】	【減価償却】	【欠損金・帰属事業年度】
【総合問題(過去問題)】	【準備金】	【特別償却・特別償却準備金】	【リース取引・借地権等】
	【欠損金】	【繰延資産・資産の評価損益】	【設立・解散】
	【帰属事業年度の特例】	【受取配当等・有価証券等】	【組織再編・自己株式】
	【同族会社】	【所得税額控除・外国税額控除】	

お問い合わせ先